

更なる経営改善の検討

1 基本的な考え方

第1回赤穂市民病院経営検討委員会での委員からの意見(現状でまだやれることがあるのではないか。市民病院と中央病院の2病院で具体的な機能分担について別途協議を行う。)等を踏まえ、更なる経営改善を検討した。

【試算の前提】

- ①現状の経営形態(地方公営企業全部適用)を維持
- ②退職者不補充による人件費(10人(看護師)65,830千円、9人(医療技術員)61,785千円 計127,615千円)は、既に計上済み

2 収支改善の検討

(千円)

経営改善試算項目	考え方	収益 (A)	費用 (B)	概算改善効果 (C=A+B)	積算
①収益向上				41,198	
地域包括ケア病棟の稼働率向上(+5人/日)	西播磨地域では、回復期の需要が増加すると見込まれることから、地域包括ケア病棟の稼働率を+5人/日とした。(現行41人→見直し後46人:+5人)	56,591	▲15,393 (材料費比率27.2%)	(41,198)	5人×31,009円×365日=56,591千円
②給与手当削減				13,852	
給与手当の減額(赤穂市及び赤穂市民病院管理職手当カット率並み)(▲5%)	勤勉手当について、赤穂市及び赤穂市民病院管理職手当カット率(5%)並みで削減		13,852	(13,852)	277,044千円×▲5%=▲13,852千円 (R3市民病院勤勉手当予算額)
③重複診療科の見直し				41,909	
(収益減少)	①常勤医師1名又は非常勤だけの診療科(市民病院)	▲215,528		(▲215,528)	見直し対象診療科のR2入外収益
(費用減少)	②医師一人当たりの収入が、全国公私病連盟と比べて低い診療科(市民病院) ③中央病院の方が市民病院と比べて医師や設備が潤沢な診療科について見直すとして試算 ただし、あくまで試算であり、中央病院及び市民病院のコンセンサスは「未了」		257,437	(257,437)	見直し対象診療科のR2人件費
④高度医療機器の見直し				39,866	
PET-CTの保守料削減	PET-CT読影医師の退職に伴う、機器保守料及び人件費を削減		26,136	(26,136)	R2実績
PET-CTの専任職員削減			13,730	(13,730)	2人×6,865千円=13,730千円
合計		▲158,937	295,762	136,825	

3 試算結果

現状の地方公営企業法全部適用で更なる経営改善を図った場合の改善額は、概ね1.4億円となる。